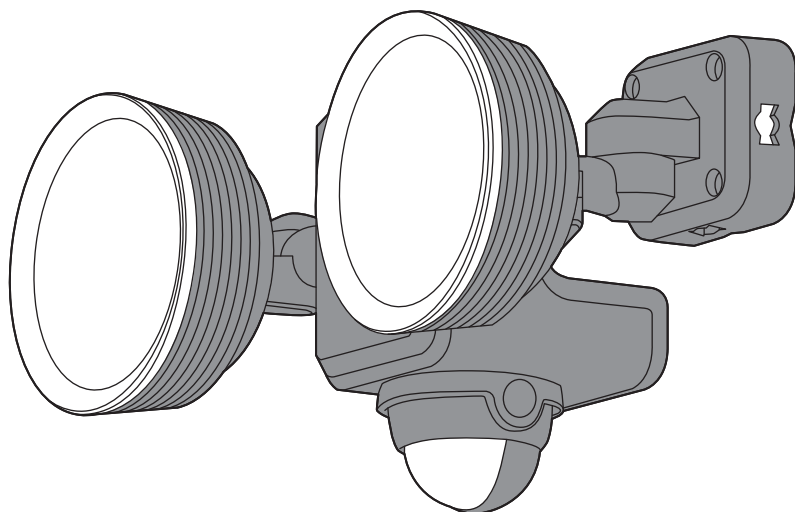


1.3W×2灯フリーアーム式LED乾電池センサーライト

取扱説明書**保証書**

この度は、**RITEX** ライテックス 1.3W×2灯フリーアーム式LED乾電池センサーライトをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。
本書は、お読みになった後も大切に保管してください。





1. 安全上のご注意


お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を防止する為に、必ずお守りいただきたいことを説明しています。安全にお使いいただくために、以下の注意事項を必ずお守りください。


■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。


■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。(下記は絵表示の一例です)

 **警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」を示しています。

 **注意** 「けがや財産に損害を受けるおそれがある内容」を示しています。

 このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

 このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

 このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

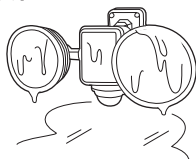
警告

ご使用や設置について

本体は大量の水がかかる場所に設置しない



禁止

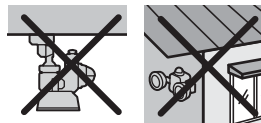


通常の雨、風には耐えますが、防水タイプではありません。※防雨構造はIP44電気機械器具の保護等級について許可を受けた規格です。故障の原因になります。

屋内・屋外に関係なく斜め向き、下向き、逆さまに取り付けない



禁止



故障の原因になります。

付属品を使用する



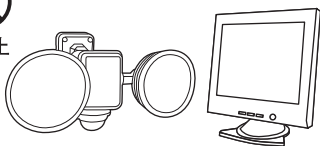
必ず付属品で取付けてください。

落下、故障の原因になります。

家電製品の近くで使わない



禁止



テレビ、ラジオ、電子レンジ、蛍光灯、電話、ファックス、パソコン、OA機器や家電製品から2m以上離してください。故障、誤動作の原因になります。

引火性溶剤は使わない



禁止



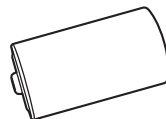
清掃のときは、水で濡らせた布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。火災、感電の原因になります。

乾電池の異臭、発熱、変形
に気が付いた時は



電池を抜き、弊社にご相談ください。

乾電池を
交換の時は



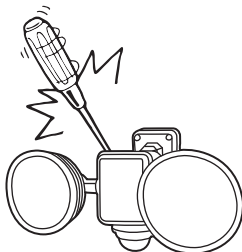
濡れた手や、本体が濡れた状態で、乾電池の
交換はしないでください。

感電、故障の原因になります。

分解や改造をしない



分解禁止



修理や内部の点検は、販売店にご相談くださ
い。

火災、感電、故障の原因になります。

燃えやすい物の近くに取付け
ない



禁止



布や紙など燃えやすい物や引火しやすい
物の近くには絶対に取付けしないでください。
昼でも本体に物（布団や布等）を被せると
点灯し引火する危険があるので絶対にしな
いでください。
火災の原因になります。

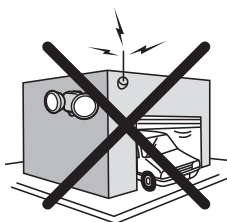
⚠ 注意

ご使用や設置について

電波を出す器具の近くに
取付けない



禁止



故障、誤動作の原因になります。

モーターや磁場を発生させる
装置の近くに置かない



禁止



故障の原因になります。

※本機は本格的な防犯機器ではありません。強盗・盗難などの被害における責任は
負いかねますので、あらかじめご了承ください。

※商品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがあります。

2. 取付け前の注意

■ センサーは、周囲の明るさと温度変化に探知するので、
図のような場所を取付けると、誤動作や作動しないときがあります。

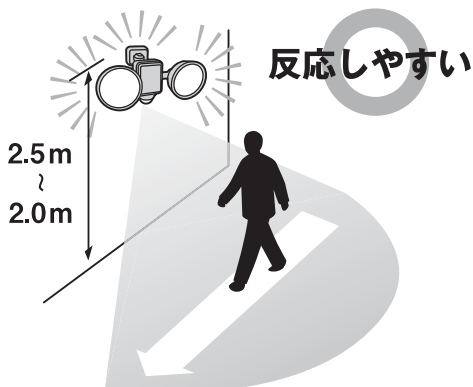


3. センサーの探知の注意

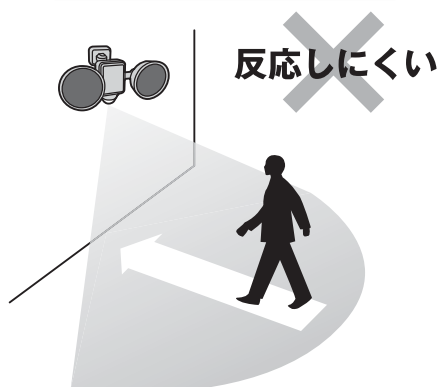
■ センサーは、最長約前方6m/左右約140°の範囲で人を探知しますが、取付け環境でセンサー探知が変化します。

① 先ず仮設置して動作を確認してください。

横の移動

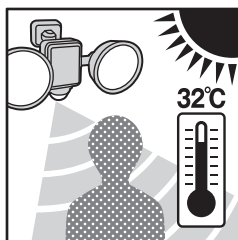


センサーに向かう移動



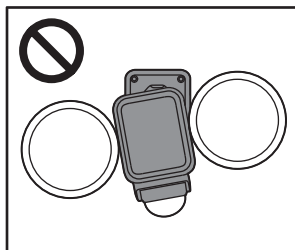
- ・ 取付け高さは2.0～2.5mが最適です。
- ・ 取付け高さは最高3mまでです。
- ・ 取付け高さを半分にするると探知範囲は、図の半分になります。

② 夏はセンサーの感度が鈍くなります。



センサーは人を熱として探知するため、体温と気温の差が減少する夏は反応が極端に鈍くなります。
センサーの特性によるもので故障ではありません。

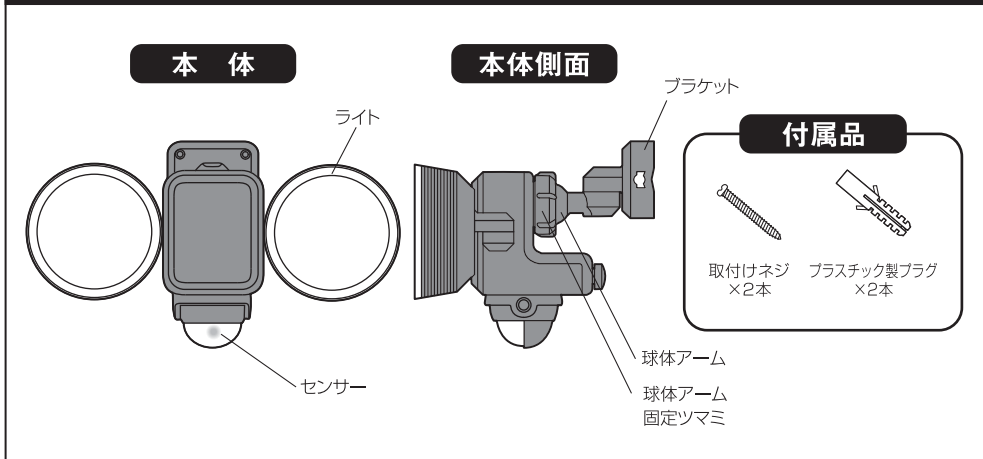
③ 本体が左右に傾いているとセンサーが誤作動します。



本体は正面から見て地面と水平になるように調整してください。センサーが探知したい方向に向かない恐れがあります。

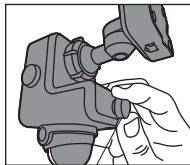
※ “7.本体の向き調整”を参照してください。

4. 部位説明

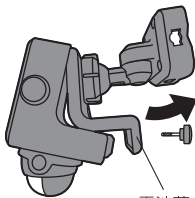


5. 電池の入れ方

- ①電池蓋固定ネジを緩め、
電池蓋を外します。

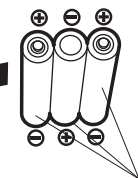
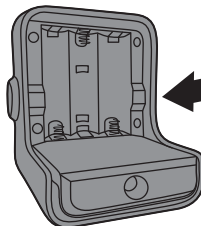


電池蓋固定ネジ



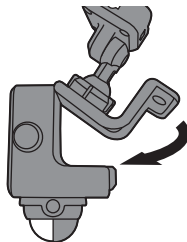
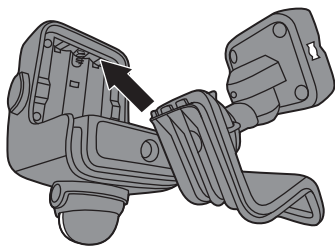
電池蓋

- ②単3アルカリ乾電池3本を入れます。
※プラスマイナスの向きを間違わない
ように注意

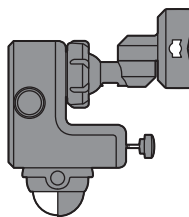


単3アルカリ乾電池3本

- ③電池蓋上部の3つの爪を本体に引っ掛け
電池蓋を取付けます。



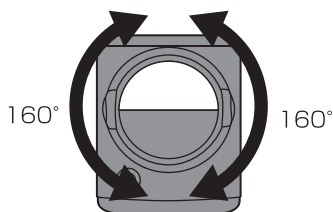
- ④電池蓋固定ネジで
しっかり固定します。



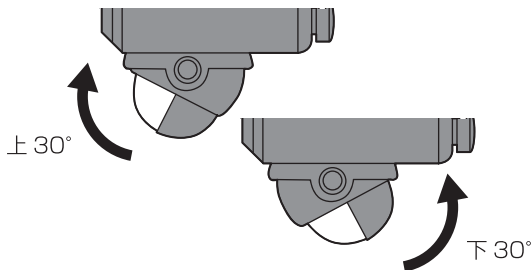
電池を交換する際には、万一電池が落下しても怪我や事故が起こらないよう充分注意して交換を行ってください。

6. センサーの向きの調整

・左160° 右160° 回転します。



・上30° 下30° 回転します。

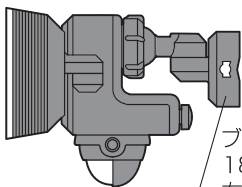


7. 本体の向きの調整

■本体全体をお好みの方向に向けます。

①出荷時の

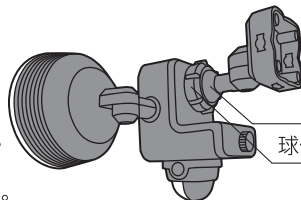
ブラケットの位置



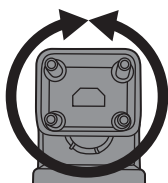
ブラケットが下向き。
180°回転させ
右図の向きにします。

②球体アームの

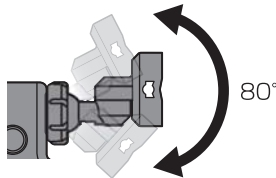
角度調整は球体アーム固定ツマミを手で
少し緩め本体を向きたい方向に向け、締めて固定します。



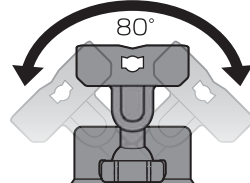
・360° 回転します。



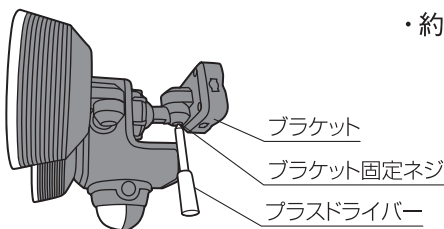
・約80° 回転します。



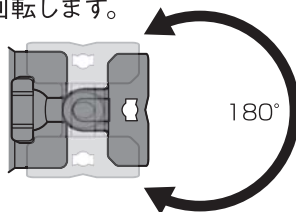
・約80° 回転します。



③ブラケットの角度調整はブラケット固定ネジをプラスドライバーで少し緩め
本体を向きたい方向に向け、締めて固定します。



・約180° 回転します。

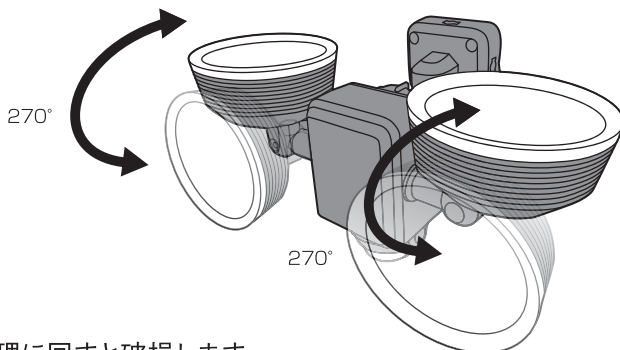


※球体アームの角度調整と合わせて調整すれば左右上下自在に調整できます。

8. ライトの上下の向きの調整

■左右のライトを照らしたい方向に向けます。

- ・ライト上90°
下180°回転します。

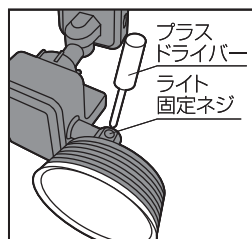
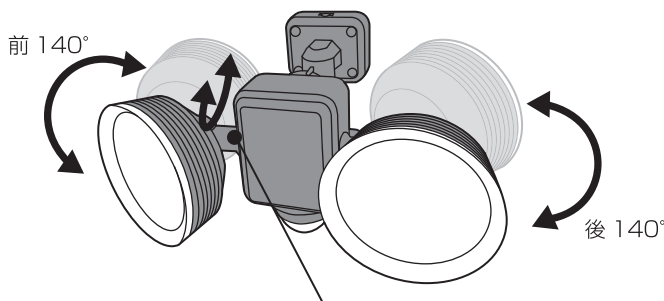


※可動範囲以上に無理に回すと破損します。

9. ライトの横向きの調整

■左右のライトを照らしたい方向に向けます。

- ・左右のライトは後140°回転します。



※左右の固定が緩い場合、プラスドライバーでライト固定ネジを少し締め調整してください。

※“8. ライトの上下の向きの調整”で下180°に回転させると前後の回転が逆になります。

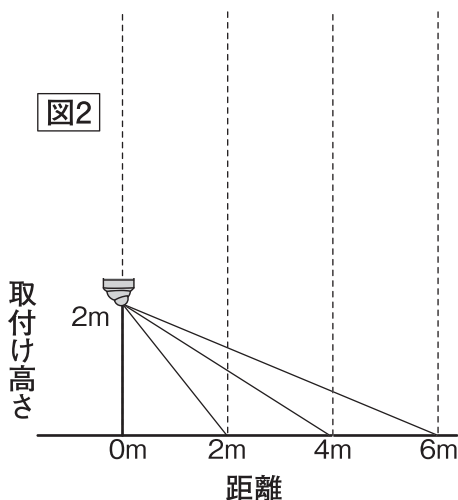
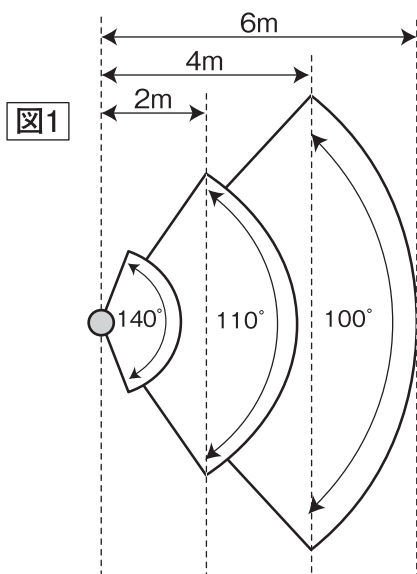
10. センサーの探知範囲

■センサーは、最長約6m×140°の範囲で動く人を探知します。

※センサーに向かって左右に横切った場合は敏感に反応しますが、センサーに向かって直進した場合は、極端に探知が鈍くなります。図1、図2の条件に合う場所に取付けてください。

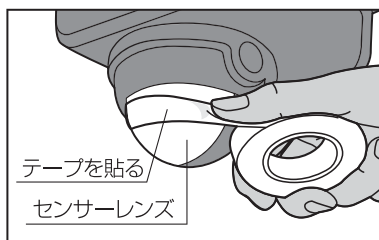
※夏場の周囲の温度が高く、人からでる体温との差が小さい場合は、探知が鈍くなり、ときには探知しない場合があります。

- ・取付け高さが2mの場合の探知範囲です。
- ・取付け高さは最高3mまでです。
- ・取付け高さを半分にすると探知範囲は、図の半分になります。



探知範囲を狭くする

- ・探知範囲を狭める場合はセンサーレンズに透明か白色のビニールテープを貼ります。
(セロハンテープは薄いので二重に貼ってください)
 - ・上面に貼ると探知距離が短くなります。
 - ・側面に貼ると探知角度が狭くなります。
- ※センサーレンズ内に明かりセンサーも内蔵されていますので色の濃いビニールテープを貼ると夕刻や昼間でも点灯を開始する場合があります。



11. 本体の取付け方

壁に直接ネジで取付け

- ブラケットの4つの穴から対角に穴を2つ選び、キリ、鉛筆等をブラケットの穴に通し、壁等に印を付けます。

(アルミ板、薄鉄板の場合は)

印に電気ドリル等で $\phi 3.3\text{mm}$ の穴を開けます。

(木の場合は)

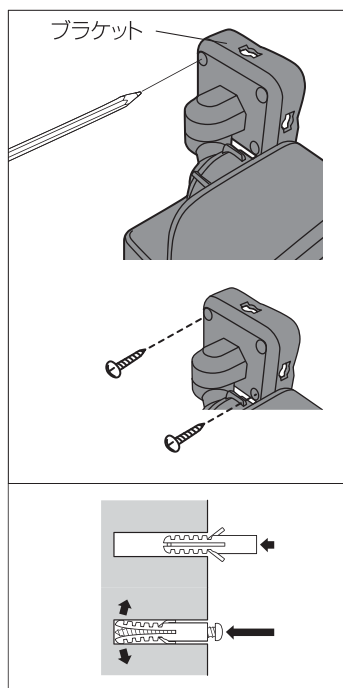
印に電気ドリル等で $\phi 3\text{mm}$ の穴を開けます。

- 付属の取付けネジでブラケットを取付けます。
※ブラケット穴は4個ありますが対角の2個の穴を2本のネジで取付けます。

(コンクリートの壁の場合)

振動電気ドリル等で $\phi 6\text{mm}$ の穴を開け、付属のプラスチック製プラグを差込み、金づち等で軽く叩き、壁と面を合わせます。

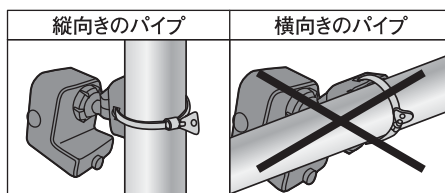
付属の2本の取付けネジでブラケットを取付けます。



市販のステンレスバンドでの取付け方

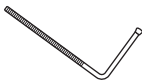
市販のステンレスバンド (幅10mm) を、ブラケットの左右の穴に通して取付けることもできます。

縦向きのパイプには取付けできますが、横向きのパイプに対しては、本体の重みで回転してしまう可能性があるので取付けないでください。

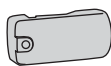


別売クランプセットを使用して取付け

別売クランプセット SP-5



L型ボルト×1本



クランプ台×1個



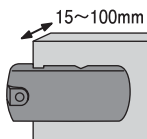
蝶ナット×1個



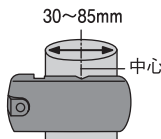
ネジキャップ×1個

クランプ台で挟む取付け方

⚠ 注意 クランプ台での取付けは、万一落下しても事故の起こらない場所に取付けてください。



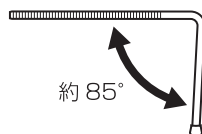
角柱・壁は奥までしっかりと入れて、挟み込んでください。



丸柱・パイプは大きさに合わせて挟む位置を替えてください。

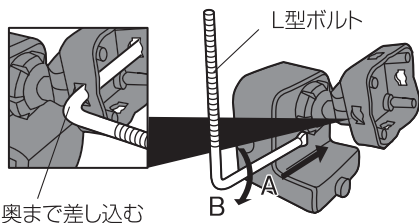
L型ボルトの形状

※クランプ台で挟み込む力を最大限に生かす為、L型ボルトは90度ではなく約85度の角度に曲げています。



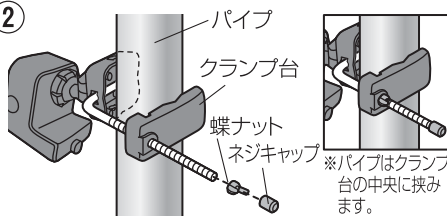
縦向き(縦向き)の柱、パイプ(縦向き)の場合

- ① L型ボルトをAの向きに奥まで差し込み、Bの向きに90°回します。



奥まで差し込む

②

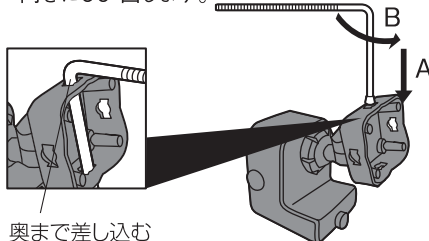


※パイプはクランプ台の中央に挟みます。

L型ボルトのネジキャップを取り、柱、パイプの間で、クランプ台を穴に通し、蝶ナットでしっかり締めます。ネジキャップを付けてください。

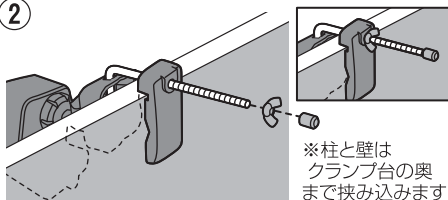
横向き(横向き)の柱(横向き)の場合

- ① L型ボルトをAの向きに奥まで差し込み、Bの向きに90°回します。



奥まで差し込む

②



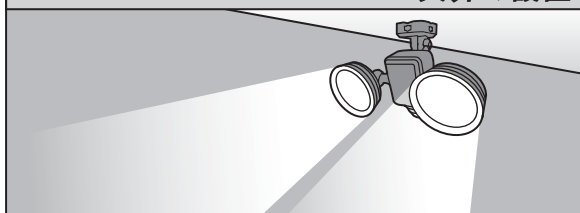
※柱と壁はクランプ台の奥まで挟み込みます。

L型ボルトのネジキャップを取り、柱、パイプの間で、クランプ台を穴に通し、蝶ナットでしっかり締めます。ネジキャップを付けてください。

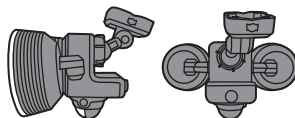
12. 設置例

※本機の箱の設置例の写真も参考にしてください。

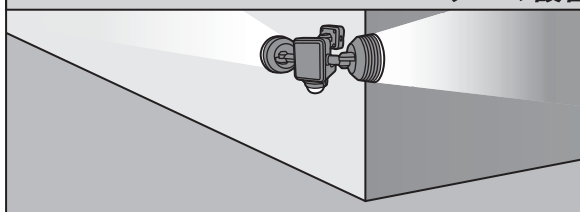
天井の設置



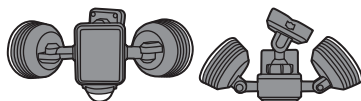
ブラケット調整位置



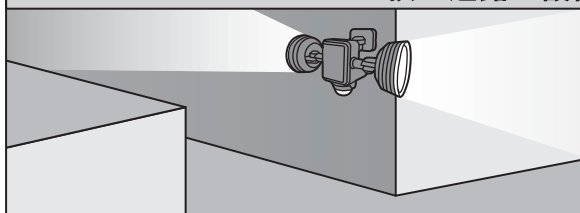
コーナーの設置



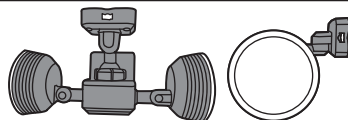
ブラケット調整位置



狭い通路の設置

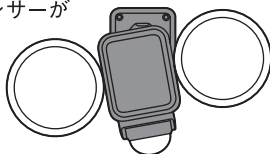


ブラケット調整位置

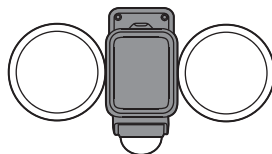


設置後の本体位置の確認

・本体が正面から見て傾いているとセンサーが誤作動します。

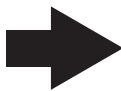
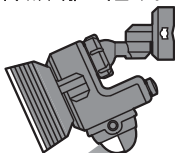


・正面から見て地面と水平にします。

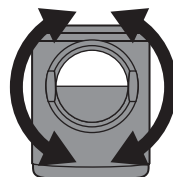
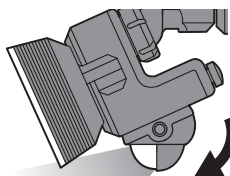


センサー位置の確認

・センサーが下に向き過ぎていると探知距離が短くなります。

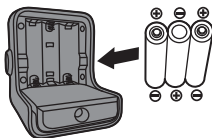


・センサーを探知したい方向に向けます。



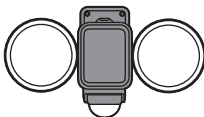
13. センサーの動作テスト

- ① “5.電池の入れ方”を参照して電池を入れます。



※スイッチはありません。電池を入れると電源 ON になります。

- ②電池を入れたらライトが点灯します。

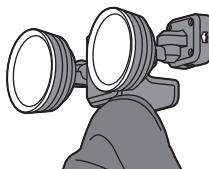


点灯 ▶ 消灯

初期動作安定のため、約 5 ~ 30 秒後に消灯します。

※点灯中は、探知範囲に入らないでください。
※製品・設定により、点灯時間が異なる場合があります。

- ③センサー部を完全に黒い布を被せ、夜間の状態を作ります。



- ④黒い布に手を入れセンサーレンズに近づけ、点灯したら手を抜きます。



点灯 ▶ 消灯

※手を抜き取ってから約 10 秒後に消灯します。

- ⑤基本動作の確認が完了しました。“7.本体の向きの調整”を参照に取付けてください。

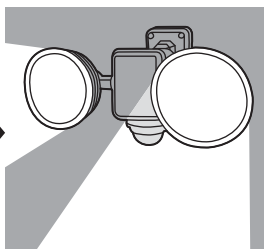
※上記の動作確認で点灯しない時は電池を正しく入れているか、また電池が3本共に新しいか確認してください。

14. センサー探知の確認

- ① “10.センサーの探知範囲”と “11.本体の取付け方”を参照して設置してください。

※人や車の往来が激しい場所や近くに設置すると不要な点灯や誤作動が多くなり、早く電池が消耗しますので設置をさけてください。

- ②夜間の暗くなってから探知の確認を行います。



※昼の明るい時は点灯しません。

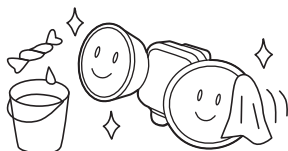
- ③センサーの探知範囲に入り、点灯したら、センサー探知範囲から出ます。

点灯 ▶ 消灯

※約10秒後に消灯します。

※探知範囲にいつまでも人が居ると点灯が延長され消灯しない時があります。

15. お手入れの仕方



本体は中性洗剤をふくませた布で拭いた後、乾いた柔らかい布で中性洗剤が残らないよう、よく拭きとります。



禁止



本体をベンジンやシンナーや研磨剤で拭いたり、殺虫剤をかけないでください。ひび割れ、引火、感電のおそれがあります。



1年に
1～2回

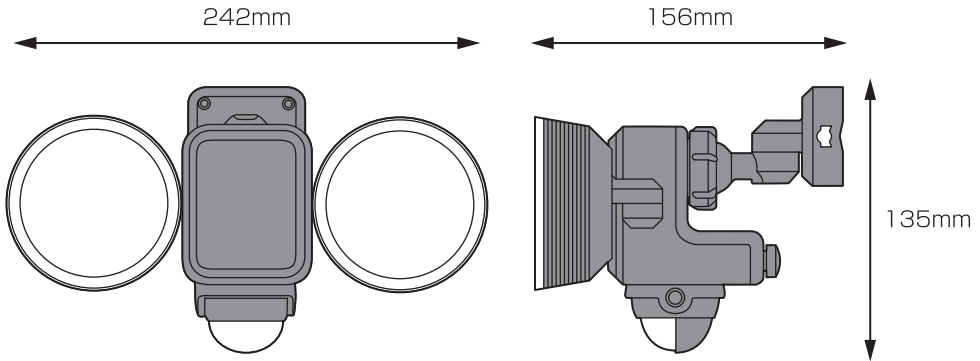
本体の取付けネジやクランプは、年に1～2回ゆるみやガタつきがないか点検してください。

※本機は防水構造ではありません、散水ホース等での水洗いはしないでください。
故障や引火感電のおそれがあります。

16. 故障かなと思った時

現象	考えられる原因	処置
点灯しない 探知範囲に人がいるのに点灯しない。	電池が入っていない。	電池を入れる。
	電池の向きが正しく入っていない。	再度電池の向きを確認し入れなおしてください。
	昼または明るい場所に設置している。	明るい場所では点灯しません。夜または、暗い場所に設置してください。
	探知範囲の設定が適切でない。	探知範囲を調節する。(センサーを探知させたい方向に向ける。)
	センサーに向かって直進している。	本機に向かって直進した場合、探知が鈍くなります。本機に対し横に移動してください。
	センサーレンズが汚れている。	探知部(センサーレンズ)をやわらかい布で傷が付かないように拭きとる。
	蒸気や雨などの水滴が付いている。寒冷地などで顔がマフラーで覆われている。手袋をしている。外気温が32℃以上ある。	本センサーは人の動きによる温度変化分を探知するために、左記のような状況では探知しにくい場合があります。
電池寿命。	新しい単3アルカリ乾電池に交換する。	
点灯しない 周囲が暗いのに探知範囲に人がいても点灯しない。	探知部に他の照明器具の光が入っている。	他の照明器具の光が入らない場所に設置する。“10.センサーの探知範囲”を参照にレンズ上部に黒のビニールテープを貼付する。
消灯しない	探知範囲内に人がいる。	探知範囲外に移動する。
探知範囲に人がいないのに点灯する	探知範囲内に誤動作源がある。 (例)・他の照明器具・エアコンの吹出口 ・犬や猫などが動いている ・風などでよくゆれる物(看板、旗、植物等) ・車の熱やヘッドライト ・強いノイズ(無線ノイズ等)	誤動作源を取り除く。 (左記に該当する物があれば取り除くか本体を移動する。)
	探知範囲の外側近くに道路があり、自動車や人の動きを探知している。	探知範囲を規制する。“10.センサーの探知範囲”参照。
探知範囲に人がいるのに消灯する	探知範囲内で人が静止している。	本センサーは静止している人には性能上探知できません。
探知距離が短い	センサーレンズが汚れている。	探知部(センサーレンズ)をやわらかい布で傷が付かないように拭きとる。
	センサー方向がずれている。	センサーを探知させたい方向に向ける。
	周囲温度が32℃以上ある。	センサーの特性上短くなります。
点灯回数が少なくなった	電池寿命。	新しい単3アルカリ乾電池に交換する。

17. サイズ



18. 仕様

電 球	1.3W高輝度白色LED×2(設計寿命約4万時間) ※1 全光束約220ルーメン	
使用乾電池	単3アルカリ乾電池×3本(別売)	
電池寿命	約3ヶ月(約90日) ※1日 10回点灯の場合 ※使用環境や電池の性能により異なります。	
センサー	探知方式	焦電型赤外線センサー
	探知範囲	約140° 最長約6m
点灯時間設定	約10秒(固定)	
点灯開始照度	周囲が暗い時のみ点灯	
サイズ(mm)	約 幅242mm×奥行156mm×高さ135mm	
重 量	約400g(クランプ、乾電池除く)	
設置場所	屋内・屋外用(防雨タイプ IP-44)	

※1 LED球は交換できません。

LED球の寿命は設計寿命であり製品の寿命を保証するものではありません。